

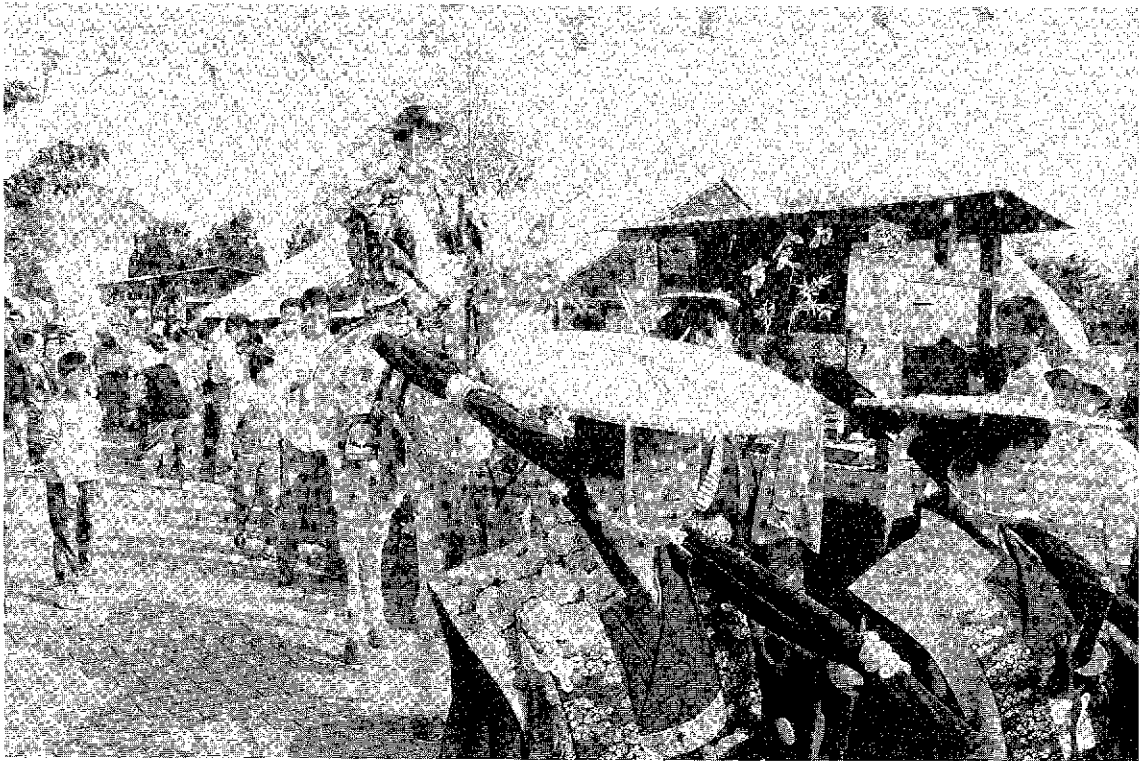
新潟県

平成7年

# 公民館月報

10月  
第512号

## 特集 地域社会を生きる —II



越後にしかわ

時代激まつり

「代官献上米行列」は、  
曾根に代官所（長岡藩  
曾根組）が置かれてい  
たころの年貢米を納め  
る様子を創作したもの  
です。昨年から始  
まったまつりです。

西蒲・西川町

（写真・資料提供、西蒲・西  
川町公民館）

### 第2回評議員会

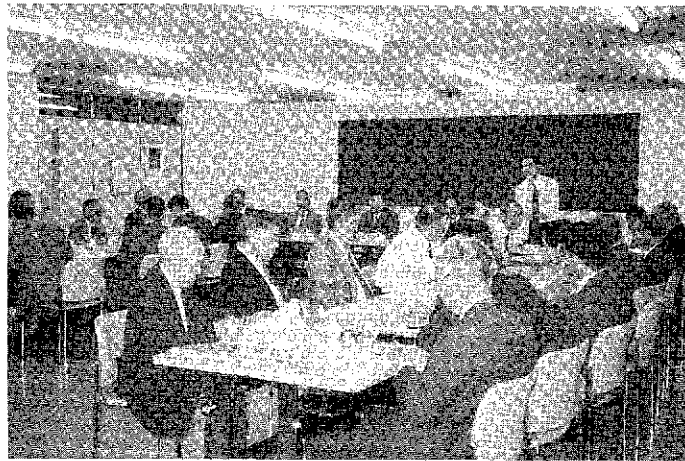
## 平成六年度の歳入歳出承認

## 来年度県公民館大会は栃尾市で

去る9月27日(木)、平成7年度、第二回評議員会が新潟市中央公民館を会場に開催された。

平成6年度歳入歳出決算の承認のほか、今年度の第46回県公民館大会の総括などの案件が原案通り承認された。

また、昨年度十二月十四日に答申のあった運営検討委員会の答申については継続審議となった。



当日の出席評議員29名欠席者6名で会議が成立し、定刻13時30分に開会された。

開会のあいさつに立った細川仁会長は、新潟県公民館連合会の最近の動向と課題、地域に期待されている公民館がどうそれに応えていくかを県公連が一体となって進めていきたいとあいさつされた。

来賓の新潟県教育庁生涯学習推進課長補佐小野博氏は

「公民館は市町村の地域の中心的教育機関であり、日常的に活動

されていることに敬意を表します。また、あと二年後に迫った平成9年度の「第9回全国生涯学習フェスティバル」の開催県として準備中であり、県公連のご協力を得たい」とあいさつがあった。

引き続き議長に上越市公民館長の早川喜一氏を選出し議事に入った。

#### ◆報告事項

一、事務局長嶋井三郎氏から分水町教育長就任のため現職辞任の申し出があり了承、後任には前事務局長上村捨二郎氏を委嘱することに決定し、報告は了承された。

二、第9回全国生涯学習フェスティバルが平成9年度に新潟県において開催されることとなろう県からの要請の説明があった。開催要項と「とやま大会」の報告書の一部を資料として提供して協力を依頼した。

三、プレフェスタとして、「学びピア」にいがた95(10月14日)15日(日)―新潟会場(10月22日)―佐渡会場への参加の要請がなされた。

四、平成7年度県公連会務中間報告

五、平成7年度本県市町村公民館国庫補助内容・申請状況の報告

#### ◆審議事項

一、平成6年度歳入歳出決算の承認について

歳入 一三、三四三、九八七円  
歳出 一二、五六一、四一五円  
差引残高 七八二、五七二円  
差引残高は平成7年度へ繰り入れる。

監査結果について、小千谷市公民館長羽島昌治氏が監事団を代表して、関係諸帳簿、証憑等が正確に処理されている旨の報告

#### 新事務局長あいさつ

### 一層のご支援ご協力を

上村 捨二郎

まことに突然でありましたが事務局長嶋井三郎氏が十月一日づけで分水町教育長に就任のため、職を去りました。その後任としてまたまた大役を引き受けさせていただきます。何分よろしくお願ひ申し上げます。

さて、今日ほど変化の激しい時代はございません。したがって、公民館はその変化にどう対応すべきかが喫緊かつ極めて重要な課題であります。そのためかどうかわかりませんが、私が留守にしていた一年半の間の県公連の動きで印象的なのは、正

副会長さん方を筆頭に理事さん方が、県公連組織の充実に積極的に活動なさっていることでもあります。つまり、「動く執行部」として活躍されていることでもあります。これも「変化」の一つではなからうかと思っております。この良き伝統を保持発展する必要があります。また、県下全公民館の負託に應える事務局となるべく努力する所存ですので一層の御支援御協力をお願い申し上げます。

告があり承認された。

二、第46回新潟県公民館大会の総括ならびに第47回大会は、栃尾市・見附市・三島郡・古志郡の公民館が主管となって、栃尾市公民館が主会場の予定である。

三、当面の問題について

①新潟県公民館振興市町村長連盟会長への要望書案が提示され、慎重に審議されたのち承認された。

# 速報「文部省見解」でる!

## これでいいのか公民館利用

去る九月二十一日付けの朝日新聞の報道によれば「文部省は個人や民間企業の運営するカルチャーセンターや手芸教室など営利目的の事業についても「社会教育」と認め各地の公民館を使ってよいとの見解をまとめた」と報じている。

すでに、このことについては大方の公民館関係者にあつては

また、同紙によれば、文部省は近く各都道府県に通知するとも報じているので、本県でもこれを受けて、やがて指導がなされるものと思われるが、それによって慎重な対応をする必要があろう。

なお、この件について「月刊公民館(社団法人全国公民館連合会刊)」十月号にも掲載されるので参考にとされることをお勧めする。(文責上村)

# 視点

古今東西、では若者に対するフラッシュ・モーションが、一挙の若い者は「近ごろの……」など、吐き捨てる言葉は少なくない。あながち若者はこの言葉を意に介する風もなく立ち振舞っている。このことから、いわゆる「大人」の世界

## 青少年の支援に当たって

吉原 喜久雄

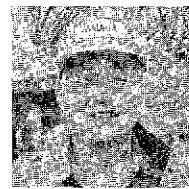
集う当研修センター勤務を命じられ、若者の態度や行動をつぶさに観察できる機会を得たが、「近ごろの若者も捨てたものではない」との認識を一層新たにしている。

確かに若者の中には「ありがとう」の言葉で締められる姿。このような若者に風体を改めよなどとはいえない。だれもが一度はとおる通過儀礼であり、懸命に「自己発見」に挑戦している姿に見えるからである。

次代を担う若者を育成するためには、日常生活の中で若者の真の姿を観察・分析して理解・認識し、的確な支援・援助を行う必要があると考えている。(新潟県立青少年研修センター 所長 吉原喜久雄)

## 汗をかかない活動はない

大平 松夫



地域公民館活動のスポーツ関係役員として、また、町の体育指導員として地域・町のスポーツ事業に携わりながら、多様化している各種のニュースポーツと言われる種目に取り組み、日々研修に励んでおります。

また、地域の活性化という問題で、どこの市町村でも取り上げられるスポーツ・文化・観光など。いずれかの分野を各々選択され進行していると思います。

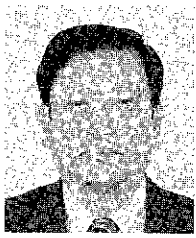
# ひろ

スポーツをどのようにして自分の生活の中に取り入れるか。どうしたら生き生きとした日々を送ることが出来るかを考え、そして行動するおもしろさ・楽しさを味わってみなければならぬと思います。

「生涯スポーツ」を掲げ施設の整備充実と指導者の育成へと体制作りがなされていると考えられます。健康を保持するために年齢差・体力・能力・好みに応じて各々生涯にわたって楽しく続けることが大切ではないでしょうか。

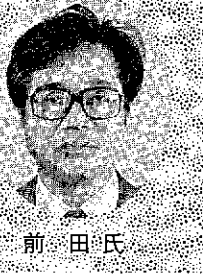
ポールをプレーしている高齢者。朝夕、トレーニング支度で格好よく歩いている人達、盛んになった中高年の登山、アウトドア志向の家族、体育館で各種のスポーツを楽しむ人達。これらは、みんな自分自身の健康管理の一コマではないでしょうか。

私たちは行政の方々と地域の人々が一方通行にならないように充分気を配りながら、今日また、笑顔で多くの人達との出会いを求めて接していかなくてはならないと感じています。(越路町公民館 運営審議会委員)



# を追って 生きるII

前田 幹 氏



前田氏

ストレスの三段階  
ストレスには三つの段階があります。

一、気づかずに自分で調節している。(警告期)私たちは眠くなれば、起きる努力をしても眠ってしまいます。屋外などで眩しいときは目を細めて自然に調節しているのです。これをストレスの警告期といい、うまくコントロールしている時期です。

二、意図的に自分でコントロールする。(抵抗期)例えばさらに眩しいところをずっと歩くとときは、サンングラスをかけます。外のもの音が気になれば窓をしめます。このように意図的にコントロールする段階を抵抗期とい

います。ここまではまだいいのです。うまく自分でストレスを解消しているからです。夫のお茶のみ方が気になるなら、別室へ行けばいいわけです。  
三、疲労困憊の時期(疲憊期)こうなると現実と病気の引き金になってしまふのです。

イライラの連続状態です。私たちの生活を朗らかに充実させていくために、ストレスをどうにかして取り除いていく必要があります。先程の「生科学会」で発表した研究によるならば、ストレスにかかっている人間も多いが、ストレスにかからない人間もいるわけですね。とするならば、そこに「タイプ」があるのではないのでしょうか。

一般的にいえば、「悪い状態でも自分で乗り越えていく」という勇氣、むしろ悪い場面に挑戦していこうとするバイタリティのある人は意外とストレスに負けないものです。  
①集中できないタイプ

一、二時間以上、ジーンと同じ仕事をするに抵抗を感じる人。人と話をしても、ゆっくりに相手のいうことを聞くことができない人  
どうもこういうふうになりやすいようです。それを「三拍手」といいます。

「早口、早歩き、早飯」この三つが揃っている人はストレスがたまり易いのです。

まず「早口」ですが、これは話し方が早い人のことです。また「早歩き」の例として、例えば「電話だ」というと、物にぶつかりながらも急いでとりに行く人がいます。皆さんも、これからは、仕事に、電話が鳴っても、ゆっくり取りにいく訓練をしておいた方がよいと思います。急ぎの重要な電話ならたとえ、切れても数分後には、またかかってくるだろう、とのんびり構えることです。

「早飯」についてですが、「年をとったらなるべく人と一緒に食事をとりなさい」といわれています。老人だけでなく一人で食事をすることはよくない、複数でとりなさいといわれている意味がよくわかります。

この良くない三拍子の揃っているタイプの人は、何でも自分のものにしないと気がすまない人だといわれています。隣のバラも欲しい、あの家のように広いというように自分の所有欲が強いばかりにストレスがたまる原因にもなっているのです。

こういう人は、バリヤ(障壁)がでやすいのでこれを変えていかなければなりません。これは人生そのものとの対決です。そ

のバリヤという重圧を我々は自分で乗り越えていくという努力をしていくことが必要なのです。

この乗り越えるエネルギーを「コーピング(coping)」といいますが「英語でクレーピング」といいます。これを日常生活の中で不断に作っていかねばなりません。今から急にできるものではありません。人生を感情のままに客観的に冷静に見つめながらストレスを取り除いていく努力をしなければならぬのです。例えば、趣味をもっている人は趣味に没頭する、またショッピングが楽しみだという衝動買いも、うまいものを食べ歩く、旅行もすることもコーピングにあたるかも知れません。

一番むずかしいバリヤは何かというところ、「人間関係」なのです。そして、それに効く一番いい薬も「人間関係」なのです。

つまり、イライラする対象というものが人間関係が主であって、そしてストレスを一番コーピング(解消する)のも人間関係なのです。したがって楽しい夕飯のひとつときはとても大切なのです。

また人間関係にも夫婦、親子、職場、地域等いろいろあります。つまり夫婦とか、親子とか職場

の人間でも、毎日にこやかにというわけにはいきません。

コーピングとしてよい方法には、仲のよい人や気持ちの合う人、家族、同級生などとひとときを過ごすことなどがあります。

一番、申しあげたいことは「つながり」です。社会的な活動がいろいろならば、そういう、つながる核になってきたのが「公民館」なのです。先日(七月二十六日)の朝日新聞の記事で「阪神震災ストレス」の中で、「女性の心と身体」という神戸の東灘区の相談事業での報告の中で、多かつた事項から申しま

- ① 家族関係のトラブル
- ② 不眠
- ③ 人間関係のトラブル
- ④ 子どもの心配

特殊な条件の中で不眠というのはわかりますね。ここには、日常的な生活の諸要素が全部でとくるのです。

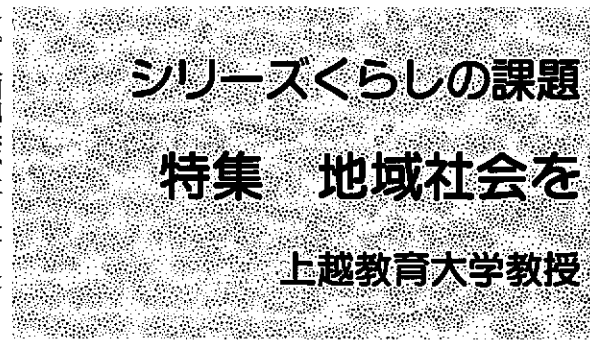
震災に会わなかった人たちが「どうしてあの危機をうまく乗り越えたのだらうか」などといっています。被災者の方々にとっては並大抵のことではなかったはずですが、統計をとって表面にだけものをだけ見ても、家族間のトラブ

# シリーズくらしの課題

## 特集 地域社会を

### 上越教育大学教授

ルや人間関係が最も大きなストレスの要因になっているのです。つまり、普通の生活の中では大して問題にならないということが、ある事柄をきっかけにして出てくるということはよくあります。例えば「肉親の死」(親と仮定します)それまで仲の良かった家族兄弟が財産争いなどでいがみ合うというようなことで兄弟姉妹が骨肉の争いそのものに、分裂してしまふ場合と、反対に、普段けんかばかりしている兄弟の場合、親の死で、一致協力するようになるということもありません。隣近所のことでも普段なんでもないように見えたことも、ある事をきっかけ



にしてはじめてその人間性というものが現れてはつきり問題として出てくるのです。ですから人間関係を調整する必要がありま。コーディネート作っていく必要がここにあるわけです。換言するならば、人間関係を豊かにし、心と心のつながりができるような間柄を普段の生活の中でつくっていく必要があるのではないのでしょうか。私は、「心の都市化」ということをよく言います。物が豊かになり、便利になる。都市化は、同時に悪い面も含んでいて、それが私たちの生活を脅すのです。とくに大都市といわれるメトロポリス(巨大都市)、東京、札幌、福岡、横浜、横須賀、北九州などでは外観的には確かに便利であり、豊かな生活が行われています。しかし、人と人とのつながりが少なく、われわれの日常生活の中でもマイナス面の都市化が起きつつあるのではないのでしょうか。自宅栽培の素朴な野菜やくだものを交換するとか、心の通うきっかけとなる言葉やや物のやりとりというものが、われわれの地域社会から失われつつあるのですね。

響き合いを求めて  
心が通い、ストレスに陥らない

人間関係の代表的な例として「Polynomy(響き合)」と訳したらいでしょうか。今後したいに使用されるであらうと思われることばです。最近このポリフォミー(響き合い)という人間関係が少くなっている。心のゆとりや心の幅や通い合いいこそこれらの私たちの生活というものを明るくしていく一つの方策になっていくのだと思います。

飯沢匡氏(ヤンボウニンボウ トンボウで著名な劇作家)は、著書「武器としての笑い」の中で、日本人は笑わないことが多い。言いかえると「笑い」とは少し違うが、「ユーモア」というものが足りない。」といっています。ユーモアの方が笑いよりも、はるかに広い意味がある。笑いには、人をさげすむものもあり、把えにくい。それに比べてユーモアというものは、明るいし、人間にエネルギーを与えるものなのです。最近医学の世界でも「ユーモア療法」というものがあります。例えば本人も病気を自覚している末期の癌患者等に対して、医者もつらい思いで接しているわけですが、一、二ヶ月と思われた生命が、半年以上もつという例が「ユーモア療法」にあると説く人がいるので

す。ユーモアのある人と、ない人では生命力が違うのです。神戸大学医学部の柏木哲夫氏は、医者も看護婦もユーモアで患者に接する雰囲気をも身につけたいものだと述べています。注射を打つことや手術の上手な看護婦や医者だけではもういけないのです。人間教育をして、ユーモアという勇気を与える人にならなければいけないといっているのです。

ラテン語でユーモアというものは、「Humor(人間の液体)」といっています。人間というものは液体、すなわち、血液、水分が約70%あり、出血多量になると死んでしまいます。水を飲むだけで人間は何日も生きていられることを、先般、韓国のあるデパートの崩壊で、水をしばらく出しながら命をつないで救出された青年の例を思い出してください。ユーモア(人間の液体)は人間の生活になくてはならないものといえることから考えると、私たちの生活の中からユーモアが次第に減ってきています。その結果として笑いが少なくなってきた、人間関係がお粗末になっていく。人間関係がバリア(壁)になりつつある時代ではないのでしょうか。

危機について  
つきに「危機」ということに

ついて話したいと思います。人生には、プラスとマイナスの方向がある。と前述しましたが、私たち一人一人の生活を考える中でも、二つに分類される「こうありたい」と、「こうありたくない」という場面があります。自分で予想しなかったような、避けたい場面につつからざるを得ないことがあります。これが「危機」です。人生訓として、「ころはぬ先の杖」「石橋をたたいてわたる」という諺があります。これが人生の危機に対する構えです。しかし親との死別、怪我、肺炎、交通事故で入院などの危機が訪れます。

普段の家庭生活の中では、そういう危機をうまくコントロールをしています。体温計、水枕、消毒薬などは使わなくて済めばいいのですが準備をしているのです。家庭生活では、予想でもしないようなことに対しての「危機管理」が非常にうまくいっているのです。

最近の天災、人災のように、「グラッ」ときた、ただ何秒間で日常生活がガラリと変わる。こんなに極端な場面でなくても回覧板の見落としなどで突然のようになりつつある時代ではないでしょうか。そういう場面を乗り越える生活の知恵を「危機管理能力」といいますね。これは経済用語

なのですが、今はもう日常用語  
になっていきます。  
ポーターズについて

「ポーター」というのは、「壁」  
とか「区切れ」のことです。家  
でいうならば、部屋間のドアと  
か衝立のことです。因際的にも  
こういうポーターがなくなる  
というのが現代の傾向です。  
人間の生き方もそうなりつつ  
あります。女性が子育てできるよ  
うに環境づくりをして仕事を持  
てる、同時に親の責任も果たせ  
るような条件づくりをする。

女性の勤務時間の問題、職場  
での待遇や給料などの男女差別  
の問題、家庭の中でも父親と母  
親の問題など沢山あります。こ  
ういうことを再検討する必要が  
あります。

ポーターはなかなか難しい  
ことです。法律、制度、仕組み  
がどんどん変わります。今まで  
の男女像を変えていくのはなか  
なか大変なのです。たかだか一  
五〇年前の江戸時代の考え方  
が、まだわれわれの中にあるの  
です。女性が役職につくと珍ら  
しがられるというポーターがま  
だ残っている。ポーターの時  
代にどう自分自身を変える努力  
をし、対処していくかを考え続  
けていかなければならない時代  
がきているのです。  
公民館はどう活動するか

### 大人はモデルになること パリア論(題)

これまでお話ししましたパ  
リア論、ポーター論は公民館事  
業や社会活動をしていく上で、  
一つの見方として参考になり役  
に立つものになるうかと思いま  
す。パリアを見つめることに  
よってパリアの突破口になつて  
いく。人生全体からいうならば、  
遅く生きていること。一人一人が  
人間関係を豊かにし、「ポリオ  
ミー(響き合う関係)」を保つこ  
と。また、「コーピング(重圧を  
乗り越える力)」を持つこと、な  
どが大切なことです。

こういうものをつくり出すと  
いうことが公民館活動のねらい  
であり、個人の生活を豊かにし、  
お互いの人間関係を明るく強く  
していくことにつながるの  
です。

家庭や職場の人間関係は常に  
共同生活をしていますから、何  
らかの形があります。ところが  
地域となると形が見えにくくて  
非常に難しいのです。その中で  
人間関係を豊かにしていくには  
どうしたらよいでしょうか。  
結論は決まっています。  
「一人一人の人間の考え方を  
変えていく。生活を変えていく」  
ということです。「在る地域か  
ら、ある在るべき地域へ変わっ  
ていく」ことです。

金を出せば、施設・設備など  
はどのようにも作れます。それ  
を活用して学びながら人がつな  
がっていくということは非常に  
大切なことなのです。それでこ  
そ、難しい人間関係を豊かなも  
のとしてつくり上げていく拠点  
として、あるいはつながりの核  
として公民館の役割や働きがあ  
るのではないのでしょうか。

文部省は何年か後には学校週  
五日制を完全に実施したいと  
言っています。あともどりはで  
きないのです。確実にそういう  
時代がきますので、家庭の問題、  
親と子の問題、地域の受け皿と  
なる大人たちの考え方が大切に  
なり、それが大きく影響します。  
文部省の諮問機関が「学校だ  
けでなく、地域の教育力につい  
ても、親の教育に対する考え方  
をガラリと変えてほしい。」と  
言っています。こういう現実  
に

対処していくためには、皆の学  
び合いの中で行われたいと発展  
的なものが得られませんか。  
「どんな親がいいか」という  
ことについては、それぞれ理想  
像や信念があるでしょう。また、  
地域の中で、どういう大人にな  
るべきかという「子どもに  
とって意味ある親」「子どもに  
とっていい影響を与える意味あ  
るおとな」になりそうという人  
が多ければ多いほど子どもはよ  
り

よい成長をしていくわけです。  
父も母も信念をもって、また  
自分でも生き甲斐や張りをもつ  
て毎日の生活をしている姿のあ  
る家族の中の子どもと、そうで  
ない子どもとは相当に違いがで  
てきます。  
子どもから見れば「あのおじ  
さんは、ああいうことができる  
のだな。」「ああいう職業がある  
のだな。大人になったらこうい  
う仕事に就きたいな。」などと職  
業選択の動機にもなるわけ  
です。  
また、毎朝、会った人や家人  
に「お早う」と声をかけられる  
と「お早う」という挨拶を自然  
に覚えていく。これが地域の子  
どもと大人の関係だと思いま  
す。これは日常的なことなので  
根気のいる重要なことなので  
ので考え直す価値があります。  
最後に  
意味ある大人がいる  
私たちの身のまわりには、自  
分が20代、40代、50代のときに  
沢山の生き方を見せてくれたモ  
デルとなる人がいました。老後  
は、この人のように過ごしたい。  
60代にはあんな生活をしたいな  
あというモデルがありました。  
モデルが自分の回りにいるとい  
うことは大きな励みなのです。  
自分の人生の方向づけの「かぎ  
をその人たちがもっていたので

す。  
私たちのすぐ近くに自分の成  
長の指針やきっかけになる生き  
方をしている大人たちがいると  
いうこと、いわゆる意味あるお  
とながいるようにするというこ  
とは、地域の果たす大きな役割  
りなのです。  
今の社会は冷めています。感  
動するということがあまりあり  
ません。  
葬儀にいつても、親族でも涙  
を流さない人もいます。親や身  
近の人の死の悲しみを分け合  
うという昔の人たちの涙を流す人  
間関係は少なくなり、配偶者でも  
翌日になれば、涙を流していな  
い始末です。保険のこと、葬儀  
の経費のことなどの計算が先立  
つのでしょうか。  
人の気持ちを自分の気持ちに  
転化できる一体感(溶解体験)  
が、子どもの生活だけでなく、  
大人の生活にも今はないわけ  
です。

「溶解」ということばは、生  
物の生き様を自分の心と一体に  
なって感じとる豊かな情感のこ  
とです。  
「なぜチョウはあんなに自由  
にヒラヒラ飛べるのだろうか?」  
「なぜ蛍は光るのだろうか?」と  
親も子どもと一緒に考えて「溶  
解体験」をさせる。これが多い  
(八面へつづく)

「溶解」ということばは、生  
物の生き様を自分の心と一体に  
なって感じとる豊かな情感のこ  
とです。  
「なぜチョウはあんなに自由  
にヒラヒラ飛べるのだろうか?」  
「なぜ蛍は光るのだろうか?」と  
親も子どもと一緒に考えて「溶  
解体験」をさせる。これが多い  
(八面へつづく)



# サークル交流

## 子育ての悩みを語り 我が子の成長を見守る

刈羽 ひよ子の会

子どもの健診の場で「近所に乳幼児期の子どもがいなくて淋しい。集まる場所があるといいね」という声で、今年の五月公民館を会場に、週一回乳幼児とその母親が自主的に集うサークルとして誕生したのが刈羽ひよ子の会。会員は二十数名いるが、

代表者二名(小林直美・近藤康子)を決め、村内の各戸から寄贈戴いた屋内用すべり台ブランコその他の遊具を活用して、およそ一回十二名前後(子どもを

含めて二十数名)の母親が、遊び仲間を得て喜喜と遊ぶ子を手分けしてみたり、子育ての悩みや、近所づきあいの問題点などを話し合っている。

ときに、村の保健婦さんから適切な指導や健康相談にも乗って戴く。

将来は、互に不要な品物を交換して役立てたり、都合の悪いときは子どもを預かり合ったりしたいと夢は広がる。

いつまでも、個性豊かに逞しく成長する我が子を見守り続ける母親同志の太い絆となることを願う。

(刈羽公民館 遠藤和夫 記)

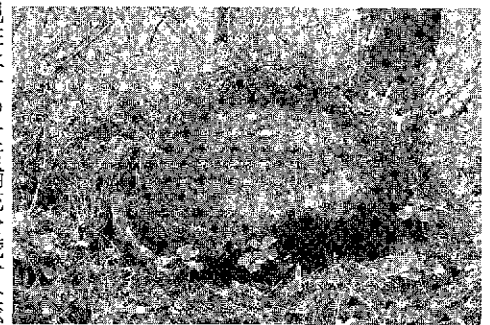
### なんでも知りたい学びたい

#### 糸魚川市浦本公民館

#### ふるさと「浦本」を知る会

明治六年の大火で全村殆どが焼失し古文書等の記録も失われたので、資料発掘と収集保存を目的に歴史研究会を五年二月に開設そのときどきの収集資料を材料に「何んでもふるさと浦本を知ろう」と頑張っている。

文化年間の能生小泊との「寒刺し鯨場紛争」の幕府直訴状の写しを初め集めた資料二〇〇点



現在はその分析補充を続けながら、さらに食欲に周辺町村の資料から郷土の姿を浮き彫りにしたいと懸念である。

目下「寒刺し鯨場紛争」「浦本

ものがたり」の素案を全員で検討中である。ときには講演・座談会に現場探勝にと、亦市史の勉強や青木不二夫先生から江戸時代の浦本部落支配について講義をうけたり、軍隊経歴者を講義に終戦前後の浦本を語り合ったり結構会員には好評である。文化祭には地域の家紋分類一覧表を発表しようという調査に入っている。浦本には海岸から二キロの山中に梵字岩があり、その謎にも挑戦したりして楽しんでるところである。

(ふるさと「浦本」を知る会

倉又 清是 記)

### 鹿瀬町公民館・公民館主事

#### 新國賢一 氏

配属二年目を迎え、本務の学校教育と公民館・社会体育を兼務して頑張っている。

Uターン2年目でもある本年は、めでたく結婚式も済ませ、可愛い奥さんと今は、人生航路に両帆をあげて、新婚旅行の最中である。

学校との連携や事務処理はも



ちろんのこと、体育大  
学出身と  
あって、ス  
ポーツにつ

## 素顔 拝見

### 柏崎公民館地域活動係主査

#### 田村光一 氏

在勤二年目であり、全市二十三館を束ねる地域活動係を担当している。

業務の性質上緻密な仕事をこなし、ナイーブな性格であるため公民館・コミュニティ指導員の女性には絶大な信頼がある。

何事もいやがらずに引き受けPTA役員をはじめ、四つも五つもの会の役員を兼ねて毎日毎日本来の業務と共にフル回転である。今後、当公民館のエイズとして、県内の会議・講習会等には努めて参加してもらいたい



と想っていますので、  
県下公民館  
職員の皆様  
方に顔を見  
知っていただくようお願いしま  
す。

趣味は今どきめずらしい(失礼かな)ボーリング。  
若くは見えるが現在すでに、  
中一と小四の父ではあるが、全  
市公民館・コミュニティ指導員  
のアイドル(?)として、ます  
ます油の乗った仕事を期待して  
います。(柏崎公民館地域活動

係長 飯塚 純一記)

「フレック、フレックけんいち!!」  
(鹿瀬町公民館主事  
伊藤 純一記)

### 公民館活動の重要性を培う

#### 上越公民館連絡協議会研修

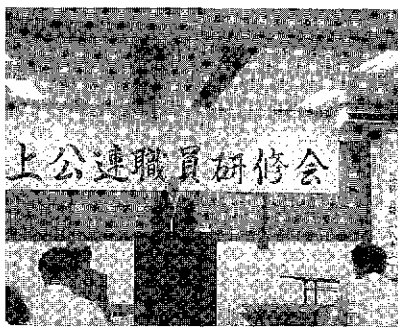
上越公民館連絡協議会では、8月31日上越市西城町の高陽荘において公民館職員の研修会を開催した。

この研修会は上越市・新井市をはじめ東・中頸城郡・糸魚川市・西頸城郡の、22市

町村の公民館職員が一同に会して研修会を行うものである。

平成五年度までは、各市郡でそれぞれ行っていた職員の研修会を、平成六年度の理事会において、年一回合同で開催することが提案され今回がその二回目である。本年度の研修会には、

20市町村36名の参加があり、午後一時から四時までの半日、上越公連主事会OB梅山八十二先



生から「草創期の公民館を通して」と題して、先生の若かりし頃の公民館活動がどんなものであったか、現代の生涯学習に取り組んでいる私達へのアドバイス等の記念講演を拝聴した。

続いて、「わがまちの公民館事業」を紹介していただく事例発表を、上越市・安塚町・中郷村にお願いし、それぞれ特色のある公民館事業を紹介した。この事例発表では各自15分位の短時間の中で、その取り組みのご苦労や成果を熱弁し、聞く者の

### 21世紀の地域づくりと公民館のあり方

#### 下越地区公民館

下越地区公民館連絡協議会では、9月7日(木)・8日(金)にかけて村上市瀬波温泉、瀬波グランドホテルはぎのやと同市田端町岩船広域教育情報センターにおいて「下越地区公民館関係役員研修会」を開催した。

この研修会は下越地区の全市町村の公民館関係役員が毎年会場を変えて集まり(今回は百六十余名)、熱心な研修が展開された。

地域の暮らしに公民館が深く関わってきた。大きく変化している社会の中で公民館はどのよ

興味を誘った。発表後には、多くの質問が出され、実務者どおしの応答に関心の高さが感じられた。

研修会終了後の情報交換会には、講師の梅山先生も参加され、事業の内容のことやら、講師のこと等具体的な話がつきることがなかった。

開催した事務局として、今回はじめて行った事例発表がそれぞれの公民館活動にとって有意義なものであったと考えている。

次回もまた特色ある公民館活動が報告されるものと期待している。(平丸記)

うな状況にあるのかを検証するとともに、21世紀にむけて公民館が地域づくりにどう機能し、どう役割を足したらよいかを考えるもの。

第一日目は、開会式のあと、小劇「公民館の復活をかけ、何をどうする」(写真)(脚本、鈴木敏夫村上市中央公民館長、キャストは、村上市・岩船郡の公民館関係役員二十名近い人たち)の問題提起があった。

「公民館まつり」を開催中の会場の前を通りかかった若者が公民館について素朴な疑問をも



ち、館長や職員や一般の市民たちの話を聞きながら公民館の歴史や役割について理解を深め、問題点を浮き彫りにしていく、というもの。

この楽しい中にも巧みに構成された小劇が問題提起となり、分科会の討議の端緒となり、本音の出る研修となった。夜は百六十余名の情報交換会となった。

第二日目は、岩船広域教育情報センター視聴覚ホールで、分科会報告と、下越教育事務所社会教育課長住安紀彦氏の講評では、「大勢集まることよりも、人数は少くても、考えて活動することの方がよいのでないか」ということが印象的だった。

そのあと、「大須戸能」のVTRと「狂言(狐塚)」の実演があった。好評のうちには終了した。

(六面からつづく)  
ほど生活内容が豊かになっていくのです。こういう親が、子どもにとって「意味ある他者」になるのではないのでしょうか。そういうことを企画して意図する子ども会の育成会がある場合「意味ある育成会員」となるのではないのでしょうか。

### あとがき

◆ 当公民館月報の編集子(実は県公連事務局長)の突然の交代のため、十分な連けいのないまま十月号編集となりました。ため、不手際が随所に目立ちますが事情ご賢察の上、ご海容ください。

月報紙面へのご批判ご意見をくださるようお願いいたします。(上村)

発行所 新潟県公民館連合会  
〒951  
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【TEL・FAX (025)224-6073】  
発行人 会長 細川 仁  
編集人 事務局長 上村 捨二郎  
【定価1部150円 年共1,800円】